



YouTube オンデマンド配信

旧ソ連の日本人捕虜 シベリア抑留策 ロシア公文書からの検証

第二次世界大戦直後、約57万人の日本兵がシベリア強制連行・労働を余儀なくされ、5万5千人が命を落とされています。この旧ソ連のシベリア抑留政策は、同国のいかなる事情によるものなのか、近年公開されたロシア公文書資料より解き明かします。

講演者



Svetlana Fukuchi

福地 スヴェトラナ 氏

成蹊大学アジア太平洋研究センター客員研究員
東京都立大学専門研究員

ロシア D.メンデレーエフ化学技術大学卒業、ソビエト連邦科学アカデミー大学院中退、東京都立大学大学院工学研究科博士課程修了（博士、工学）

旧ソ連時代に日本の文部省（現文部科学省）国費留学生として来日し、東京都立大学にて工学博士号を取得。

日本電気株式会社（NEC）勤務を経たのち、2014年より1945年の旧ソ連による日本人捕虜シベリア抑留政策を、労働政策とシベリア開発政策の観点から、ロシア公文書資料を用いた研究に従事する。

司会

永野 護

アジア太平洋研究センター所長
成蹊大学経済学部教授
成蹊大学リーディングリサーチャー

2026年9月より
YouTube配信



成蹊大学
アジア太平洋研究センター
YouTube公式チャンネルで
ご視聴いただけます！

https://www.youtube.com/@caps_official

